

キリスト教 信仰の根拠

1. キリスト教信仰とは、何ですか。

まことの神は、ただお一人の方であり、その方が、ご自分の民を罪から救うためにキリストを救い主として遣わされたことを知ることと、信じることです（ヨハネ 17:3）。

2. キリスト教信仰は、何によって証明することができますか。

それは、イエスさまが直接語られました（ヨハネ 17:3）。この知識は単純に概念的知識ではなく、聖霊を通して得る霊的知識です。キリスト教信仰は、概念的知識から始まって、さらに霊的体験を通して得られる知識を根拠にします（Iヨハネ 5:9）。それゆえ、キリスト教信仰は、信仰と従順を含めています。神が私たちの救いのために働かれた事について信仰を持ち、神の民として従順しながら義務を果たすのが、キリスト教信仰です。

3. このような信仰は、すべての人にありますか。

すべての人が、このような信仰を持っているわけではありません(I コリント 8:7)。人々は、創造主・神についての一般的な知識を持ってはいますが、それも変質され、自ら作った神を拝み、被造物を自分のための神として拝みます。それによって、色々な宗教と偶像崇拝が出て来ました。それゆえ、すべての人が、神がご自分の民を罪から救うためにキリストを遣わされたことに対する知識を持っているわけではありません。

4. この世に 多くの宗教がある理由は、なぜですか。

人々は、神を知りうる認識がその内にあるのですが、その知識が腐敗していて、自分の作った神々を拝んでいます。多くの人々がこのように神々を作って拝む理由は、薄暗いながらも神を知る知識から出て来る、神の審判に対する恐れゆえです。そのような恐れの中には、自分の死に対する恐れも含まれます。一方で、彼らはこの世にあって災いから免れ、ただ祝福を受けたいという心から偶像を拝みます。このような世の宗教などは、人間の罪に対する解決策が提供できず、ただ表面的な道徳的人間を追求するだけです。

5. 神を、どのように知ることができますか。

人間が神を知る知識を得るために、理性的で科学的な研究をしても、それを通して得られる知識には限界があります。最も人間は、被造物として限界性を持っているので、無限なる神を全て知ることができません。それは、人間の物理的な目を持って、神を見ることができないのと同じです(I テモテ 6:16)。従って神は、ご自身を啓示(開いて見せる)することを喜ばれました。神は、ご自身が行われた御業、語られた御言葉によってご自身を啓示なさいました。そ

れゆえ、御言葉を通して神を知ることは、まるで私たちが太陽の光があると確実に知っているのと同様に、確実な知識です。

6. 世の人々が 神がおられることを認めるだけでも、神を知る知識に

該当されますか。

違います。世の人々の中には、神とキリストを礼拝しない中でも、神がおられることを知っている者たちがいます。世の哲学者たちと科学者たちにも、神がおられることを認める人たちがいます。そのような知識は、神が創造された世界と、それが保たれることを通して得ることができます（ロマ 1:19-20）。それは、自然法則に従ってのことです。

しかし、彼らは、創造主・神が罪人を贖うためにキリストを遣わしたことは理解できず、さらに愚かに見えるまで言います（Iコリント 1:23）。従って、ただ神はいるでしょうと信じることや、神が宇宙万物を創造し運行なさっていると認めることが、救いと関連される神を知る知識とは言えないからです。それは、キリスト教信仰ではありません。

7. それなら、救いとキリスト教信仰とに関連する 神を知る知識は、

何処から得られるのですか。

神がご自分の民を救うために行われた御業と告げられた御言葉は、ただ聖書にだけ記録されています。神は歴史を通して、ご自分の民を創造し、彼らを祝福し、保護し、守られました。そのことを、ご自分のしもべたち（預言者たちと使徒たち）を通して聖書に記録するようにされました。神は歴史の中で、ご自分

の民に約束し、その約束を成就させました。また、それらも聖書に記録させました。従って、聖書を読めば、神さまがご自分の民をどのように救い、彼らに何を要求し、どのように祝福するのかについて知るようになります。また、神の存在と属性についても知るようになります。神は歴史の中で、多様な方式で語られ、それを預言者やしもべたちを通して民に伝えさせ、記録するようにさせました。それゆえ、キリスト教信仰と救いについて知ろうとすれば、必ず、聖書を読まなければなりません。ただ聖書を読む時は、一般的な書を読むような方式で読んでではなく、霊的な目が開かれて、神の御言葉が理解できるようにしてくださいと、願う心で読まなければなりません。

8. 聖書を通して 救いに至らせる信仰と、

キリスト教信仰を得られることは、どのような方式で成されますか。

聖書は神の御言葉です。その中に、神さまが語られた内容と神さまが行われた働きと、時には、その民の祈りの内容が入っています。これらすべてを、聖霊さまが、聖書の著者たちに靈感を与えて記録させました。

従って、聖書の中で、神さまが直接、語られたことだけが神の御言葉ではなく、聖書全部が神の御言葉です。聖書が記録される時、聖霊のみわざによって成ったからです。同じように、その聖霊さまは、私たちが聖書を読む時に、霊的理解力を与え、それを神の御言葉として信じるようにさせます（Iコリント 2:10, 14、エペソ 1:13, 17）。

そのことを、聖霊の証し、聖霊の照明、聖霊のみわざと呼びます。このように私たちは、聖霊によって救いに関連するすべてを理解し、信じるようになります（Iヨハネ 2:20, 27）。

9. そうだとしたら、聖書だけで キリスト教信仰を得るのに十分ですか。

聖書は、キリスト教信仰に対する知識を得るのに十分です。聖書は、救いに必要なすべての知識を含んでいて、救いに至らせる知恵を得るのに十分です。キリスト教信仰を得るために、聖書以外、人間の哲学、あるいは、科学的な知識を得なければならないのではありません。もし、救いに、そのような知識が必要であったなら聖書に記録されたことでしょう。

しかし、そのような一般的な知識は、救いのための必須的な知識ではありません。神は、聖書がキリストを証しするように定めておき（ヨハネ 5:39）、救いに至らせる（saving）神を知る知識を、聖書から直接的に得るようにさせているので、聖書で十分です（イザヤ 8:20、ルカ 16:29, 31）。それでイエスさまも、試みを受けられた時、ご自分についての聖書の御言葉を用いて訴えました（ヨハネ 5:46）。

さらに、神がご自分の民たちの義務を聖書に規定させてあるので、キリスト教信仰がある者には、聖書は生活の規則として必要であり、また十分です。聖書は 66 巻によって終結されています。それは、生きておられる神が、今日も私たちに記録されてある聖書を通して語られるということです（ロマ 15:4）。つまり、これ以上の新しい啓示は必要なく、すでに記録されてある聖書で十分なのです。

10. 救いの神を知る知識以外 聖書から得られる有益は、何がありますか。

聖書を通して私たちは、私たちに有益な教えと、教理などを学び、教えることができます（I テモテ 4:11, 13）。聖書は、神の人々を整えさせ、良い働きのために相応しくさせます（II テモテ 3:16-17）。また、間違っている誤り、異端たちを論駁することもできます（I ヨハネ 4:1, 6）。勿論、誤りと異端たちも、聖書を

持って自分たちの主張をしますが、彼らは、聖書を歴史的、文法的文脈を無視して、曲解させて解釈するので、私たちは聖書を全体的に説明することで、彼らの誤った主張を追い払うことができます。